

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 2月 8日

【評価実施概要】

事業所番号	2071100222		
法人名	特定非営利活動法人 明日のシニア社会を考える会		
事業所名	ヒューマンヘリテージ安源寺		
所在地	長野県中野市安源寺 9 7 5 - 1 (電 話) 0269-24-0606		
評価機関名	コスモプランニング株式会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成20年2月5日	評価確定日	平成20年3月2日

【情報提供票より】 (平成20年 1月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 3月 18日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	64,980 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷 金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	42 円
	または1日当たり		842 円	

(4) 利用者の概要 (平成20年 1月22日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護 1	1	要介護 2	3		
要介護 3	2	要介護 4	2		
要介護 5	1	要支援 2	0		
年齢	平均 82.7 歳	最低	71 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・北信総合病院 ・アライクリニック ・広田医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地から少し離れた果樹畑の中の二階建てのしゃれた洋風の建物、それが当ホームである。自然の風景が多い中で生活してきた入居者にとって、ここは自宅にいるような環境である。ホーム前は通学路なので散歩の折にはかわいい子供たちに出会う。また畑で働く住民とはお隣さんとしてのお付き合いをしている。運営推進会議を通して地域住民との親交は深まり、入居者が安心して過ごせる環境となっている。ホーム側は地域に役立ちたいと地域サロン、子育て支援などを検討している。職員は入居者を人生の大先輩と尊敬し、毎日の生活が気分良く、生きがいのある暮らしが出来るように一人ひとりを見守り支援している。温かい家庭を感じるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	今回で三回目の外部評価となる。外部評価の結果は全体会議で報告され見い出された課題 (職員研修、災害時対応等) を検討し改善に取り組んだ。 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 全職員が自己評価に取り組み、話し合っって作成している。自己評価、外部評価の意義を理解し、ケアを振り返りサービスの質の向上に役立てている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 運営推進会議はメンバーの都合等で4ヶ月に一回開催しているが、今後は案件が生じたときに臨時会議を開きたいと考えている。会議では地元区やホーム側からの案件・要望等を検討し、問題解決にむけ協力し合っている。例えば、ホーム側からは夜間に救急車を要請した時や災害時に地域住民に協力をお願いし、緊急呼び出しの非常灯とサイレンを設置、通学路が暗いという住民からの要望を受けホームは街灯を取り付けた。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 家族の面会時や家族会 (年一回行事に合わせて開催) の機会に意見や要望を聞いている。出された意見や要望、苦情等に関しては全体会議で検討し運営に反映させている。
重点項目③	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 区費は収めているが草刈や掃除などの活動は免除されている。地区のお祭り、行事には何時も声がかかり、公民館での宴会には入居者と一緒に参加し住民との交流を楽しんでいる。また、野菜や果物を頂くほか、サクランボ畑の持ち主からサクランボ狩りに招待されるなど地域住民がいつもホームを気にかけてくれている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	“地域の中で住民と関りを深めながら入居者の生活を支援し・・・”を理念に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着型サービスを実践するためにはどうすべきか、ホームの役割を話し合っている。全体会議では毎回、理事長から理念の講話がある。その上で日々の入居者との関りが理念に基づいているか振り返り確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区費は収めているが草刈や掃除などの活動は免除されている。地区のお祭り、行事には何時もお誘いの声がかかり、公民館での宴会には入居者と一緒に参加し住民との交流を楽しんでいる。また、畑の持ち主からサクランボ狩りに招待されるなど地域との関り、付き合いは年々深くなってきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は今回で3回目であり、研修、緊急時対応などの改善をした。自己評価票は各職員が個別に行い、その上で全体会議で話し合い作成している。自己評価、外部評価の意義を理解し、ケアを振り返り、サービスの質の向上に役立てている。		

ヒューマンヘリテージ安源寺

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーの都合等で4ヶ月に一回開催している。ホームからの報告以外に災害対策、地区の祭り、通学路の街灯などを話し合い改善に繋げている。急な案件が生じたときには臨時会議を開くことを次回の運営推進会議で相談する予定である。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは他市町村在住の住民からの利用相談や医療機関との連携などについて相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	暮らしぶりはホームだよりと家族の面会時に伝えている。職員の異動に関しては口頭で報告しているが、全入居者家族に確実に伝える方法を現在検討中である。金銭に関しては個別の小遣い帳があり、家族は面会時等に確認している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や家族会（年一回行事に合わせて開催）の機会に意見や要望を聞いている。出された意見、要望や苦情等に関しては全体会議で検討し運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は出来るだけ避けている。職員の入れ代わりはホーム内の雰囲気が変わるので入居者の生活に影響がないように配慮している。		

ヒューマンヘリテージ安源寺

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が研修や勉強会に参加できるように計画的に行われている。高齢者に優しい都市、オレゴン州への海外研修もある。研修後は報告書を作成、会議で報告し職員間で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北信地区グループホームの本部的役割をしている。相互交流は定期的実施されている。訪問先での気づきや工夫している点など良いところを取り入れサービスの質の向上に活かしている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	2～3日の体験利用（家族も一緒に泊まることもある）の後、本人が納得した場合に利用を開始することを基本としている。見学のみで利用希望者が『気に入った』と入居開始した例もあるが、そうした時にはトラブルには到っていない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者を人生の大先輩と尊敬の念を抱きながら一緒に生活している。昔の話を聞いたり生活や考え方などを教えてもらうが、とても参考になっている。職員が感心することもたびたびあると伺った。		

ヒューマンヘリテージ安源寺

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとり今日まで暮らしてきた生活歴があるので入居者の意向に添った生活が出来るよう日々取り組んでいる。昨年から介護相談員を受け入れている。今まで職員には言わなかったことを相談員には話す入居者もいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族から希望等を聞いた上で全職員で話し合い、本人本位の介護計画（目標指向型）を作成している。作成された介護計画は家族にも説明し、了解のサインをもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的（3～6ヶ月）にケア会議で見直しをしている。見直しで問題があれば全体会議で改めて話し合いをしている。要望や状態が変わったときなどは直ちに介護計画を修正し現状にあったものに作り変えている。	○	介護計画の遂行状況や問題が生じていないか、支援の内容はよいか、統一した支援が提供出来ているのかなど確認のため毎月見直しをして欲しい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	無料認知症高齢者相談室の設置を検討している。通院や受診、買物は家族に代わり付き添っている。ホーム前の道は通学路であり、小学生がトイレを借りに飛び込んでくることもあり“子供のあんしんの家”的な役割もしている。		

ヒューマンヘリテージ安源寺


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、主治医は入居前のままである。主治医の変更は入居者家族の希望に合わせている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの事例はないが、地域密着型サービスの勉強会で基本的なことは学んでいる。入居者がやがては重度化や看取りが必要になっていくことを職員は認識しており、医療機関との連携、支援の仕方などを具体的に話し合っている。	○	重度化や終末期に対する対応方針（指針、マニュアル）の作成や勉強会を重ね知識を深めて欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の個人情報保護法への理解や秘密保持の徹底は図られており、法人に誓約書を提出している。サービス提供時にはプライバシーを損ねない声掛けや支援の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはおおまかに決まっているが入居者の状況を確認しながら一人ひとりのペースを優先し支援している。		

ヒューマンヘリテージ安源寺

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者に味見を御願いしたり、時には料理の方法を教わるなど和気藹々と食事の準備をしている。入居者と職員は同じテーブルを囲み、おしゃべりをしながら楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝から浴室内を暖め何時でも入浴出来るよう準備している。入浴を拒む入居者は複数いるが無理強いせず、本人が『入りたい、入ってもいい』という気持ちになるまで様子を見ながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力量に合わせて声かけを行い意欲的な生活ができるよう支援している。入居者は料理の下ごしらえ、配膳、食事の挨拶、洗濯物をたたむ作業など出来るところで楽しみながら行っている。職員は労をねぎらう感謝の言葉を入居者に掛けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩や入居者の希望に応じての外出（回転寿司、ファミレスなど）、買物にも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ニュースなどで高齢者の事故（行方不明や交通事故など）を知るたびに不安を感じるが、鍵を掛けないケアを実践している。外出しそうな入居者がいても見守りや外出に付き添うなど自由な暮らしを支援している。		

ヒューマンヘリテージ安源寺

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回防災訓練を行っている。消防署の指導を受け避難訓練を実施している。入居者との避難の大変さや難しいことを体験し今後の課題ともなっている。運営推進会議で災害や緊急時の協力を地域住民にお願いし、役割など具体的な話し合いをしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士に献立を見てもらったり、栄養バランスのアドバイスを受けている。摂取量や水分量を記録し、職員は情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お雛さまが飾られた広い居間兼食堂にはゆったりとした大きめのソファや椅子があり、入居者は思い思いの場所でテレビを見たり、おしゃべりしている。大きな窓からは果樹畑や遠くに雪を頂いた山々を眺めることができ、季節の移り変わりも知ることができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族写真、使い慣れた机やタンスなどの家具、テレビ、人形や小物などが持ち込まれていた。毎日、遠方の身内と連絡をとっている入居者の居室には電話とFAXが取り付けられている。		

※  は、重点項目。